

山王台だより 1月号



【学校教育目標】「自分のよさに気付き、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる」

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

「生きていく意義」をつかむとき

～アニメ「千と千尋の神隠し」より～

校長 志田 一彦

平成最後の年が明けました。新しい時代に向け、教育界も大きな変化が求められています。時代のニーズを踏まえつつ、「変化させるもの、変化させてはいけないもの」を見極め、「学びの土台」をしっかりと築いていきたいと思えます。

今年も、保護者、地域の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

冬休み、久しぶりにビデオで長編アニメ映画を観ました。小学校4年生、10歳の少女が主人公の「千と千尋の神隠し」です。この映画は日本アカデミー賞にも選ばれ、国内外から高い評価を得た作品です。テレビで何度も再放送されているので、ご覧になった方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

10歳の少女・千尋は両親と共に引っ越し先に向かう途中、神々が住む不思議な温泉街に迷い込んでしまいます。そこは、人間が入ってはいけない世界で、両親は豚にされ、千尋は神々が傷を癒やしに来る湯屋で働くこととなります。

それまでの千尋は、卑屈になってわがままを言ったり、すぐに両親に頼ったりするなど、無気力で弱い少女でした。

ところが、千尋がこの神々の世界で生きていくために大きな課題にぶつかります。それは、人間のままで元の人間の世界に戻ることに、両親を返してもらうこと、出会ったハクと名乗る少年を助けることです。そのためには、神々の世界を支配する魔女の湯婆婆（ゆばーば）に何を言われてもひたすら働くことでした。

千尋は自分から一生懸命に働くようになります。はじめは仕事の手際も悪く、失敗の連続でしたが、次第に適応力や忍耐力を身に付けていきます。他者への気配りもできるようになります。辛い仕事にも関わっていきます。ハクを救うために大活躍をしていきます。

人間の世界では見られなかった千尋の「生きる力」が芽生え、自分が人のために「生きていく意義」をつかんでいくのです。

この映画は10歳の子どもの成長する過程がしっかりと捉えられているように思いました。10歳という年齢は、幼児期を過ぎ、思春期と言うには、まだ、少し早いながらも、親からの自立心が芽生え、自分の周りの人やものに関心を向け始める時期です。そして、自分の「まち」には様々な人たちが住み、その人たちはそれぞれの生き方をしていることに気付き、自分がそれらにどのように関わっていくのかということを見つけていく年齢だと思えます。

子どもたちの日常生活には、生きていく上でのいろいろな課題があります。その課題にどのように出会わせるか、どのように学ばせるかが、その後の子どもの成長を左右する大きな要素だと考えます。

学校では教師が、家庭では保護者が、子どもの目線に立って自立のための支援をしっかりと行うことが、子どもの「生きる力」を育み、「生きていく意義」をつかませることができるのだと思えます。

今月の24日には4年生による「10歳を祝う会」があります。山王台小学校の4年生が、自分の成長をどう振り返り、今、何を思い、何を語るのか、楽しみです。

音楽朝会にぜひご来校ください。

1月28日（月）8時20分より 場所：体育館
子ども達の全校合唱の後、5年生の発表も予定しています。